

令和2年度 清原中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

- ①活力ある生徒 ②よく考え、創造する生徒 ③豊かな心を持ち、思いやりのある生徒

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

- ①頑張る人 ②考える人 ③思いやりのある人

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

豊かな心と健やかな身体をもち、社会の変化に主体的に関われる能力や創造力を培い、自らの向上とより良い社会の発展を目指し、国際社会に生きる人間性豊かでたくましく生きる生徒を育成する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 教職員の和を基調とし、「教師が変われば、生徒も変わる」を信条に、師弟同行の実践を踏まえ、「生徒を前面に出し、見守り・見届ける」生徒指導に徹する。
- (2) 知・徳・体の調和を図り、各教科等において基礎・基本、体験的な学習や課題学習、個に応じた指導を重視し、自ら学ぶ態度を育成する。
- (3) 道徳教育・人権教育・国際理解教育の充実と各教科、総合的な学習の時間、特別活動等の特質に応じた指導の深化を図り、生徒の活力を醸成する。
- (4) 一人一人の生徒が自己の特性について理解を深め、進路に関する情報を収集・活用し自らの生き方を探求するとともに、進路の選択・決定ができるよう、学校、家庭及び地域社会との連携を密にしながら、指導・支援に努める。
- (5) 緑に恵まれた環境を活かし、思いやりや助け合う心を育て、特色ある学校づくりに努める。
- (6) 教職員の働き方改革に向けて、生徒と向き合う時間の確保及び就労時間の削減のために、日課の工夫や IT を活用した業務の効率化を図る。

【清原地域学校園教育ビジョン】

自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて主体的に取り組む児童生徒の育成
～人との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

本校教育目標を達成するため、地域や学校の実態及び生徒の心身の発達の段階と特性等を十分考慮し、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成が図れるよう各教科等の指導内容、指導形態、時数等の相互の関連を考慮し、教育課程を編成する。その際、学力の基礎・基本の定着、心の教育、健康安全の確保、地域とともにある学校づくりに留意する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学校運営 】

思いやりをもち、認め合い、助け合いながら良好な人間関係を築ける生徒の育成

【 学習指導 】

- ・基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と根気強く学習に取り組む生徒の育成
- ・学習に自主的・主体的に取り組み、他者との対話を通して、自らの学びを深めることができる生徒の育成

【 生徒指導 】

基本的生活習慣の定着

○ふわふわ言葉（やさしい言葉）の推進・ちくちく言葉（人を傷つける言葉）の禁止

【 健康（体力・保健・食・安全） 】

○健康教育及び安全教育を推進し、心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

| 項目 | 評価項目 | 主な具体的な取組 | 方向性 | 評価 |
|---------|--|---|-----|--|
| 目指す生徒の姿 | <p>A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「生徒は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 授業中は、教師の指示や説明を集中して聞くようにさせ、落ち着いた学習環境作りに努める。</p> <p>② 生徒がグループで話し合う場面や発表する場면을意図的・計画的に設定し、主体的に学習できるようにする。</p> <p>③ 学習委員会での、自主学習ノートの展示や定期テストの予想問題作成等を通して、学習に意欲をもって取り組むようにさせる。</p> | B | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は92.7%（昨年度より3.6ポイント↑）で、目標を12.7ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 学習の3つの決まり「チャイム着席、きちんと起立、礼、指名されたらハイ」の徹底を図るとともに、話の聞き方、発表の仕方、ノートの取り方など基本的な学習態度、学習技能の育成を図っていく。また、基本的な学習習慣への指導や、主体的な学習活動場の確保、自主学習ノート等を通して、学習意欲を高めていく。</p> |
| | <p>A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 学級の当番活動や係活動では、互いの役割を尊重する意識を高める。</p> <p>② 道徳の授業で、思いやりについて考えさせ、日常生活において思いやりの心を態度で示すようにさせる。</p> <p>③ 教職員は、生徒の周囲に対する望ましい態度や声かけに対して、日常的に認め、称賛することを心がける。</p> | A | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は87.5%（昨年度より0.3ポイント↓）で、目標を7.5ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 道徳の授業、給食活動や清掃活動などで、思いやりの心の育成を図る。また、行事等の事後指導では、統一した振り返りシートを活用し、思いやりの心の大切さや意義に気付くようにする。さらに、学校生活の中の思いやりあふれる行動を称賛できるように、生徒の活動をしっかりと観察する。</p> |
| | <p>A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 委員会活動での生徒の自主的な活動を掲示物等で知らせ、自分の役割を果たすことやルールを守ることの大切さを理解させ、基本的な生活習慣の習得を図る。</p> <p>② 教職員が決まりやマナーをしっかりと守った行動をすることにより、生徒の規範意識を高めていく。</p> | B | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は88.7%（昨年度より0.4ポイント↓）で、目標を8.7ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 委員会活動を活性化し、決まりやマナーを守って生活する啓発活動を行う。教職員の肯定回答率が市の平均より6.8ポイント下回っていることから、見過ごさず適切に全教職員で指導するとともに、自らの行動も律していく。</p> |

| | | | | |
|-------------------------------------|--|---|---|---|
| 目 指 す 生 徒 の 姿 | <p>A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上</p> | <p>① 学級での朝の会や帰りの会時のあいさつ、授業開始時・終了 時のあいさつ、給食時のあいさつを徹底する。</p> <p>② 教職員が自ら率先してあいさつを行うことで、生徒のあいさつへの意識を高める。</p> <p>③ 生徒会を中心とした、あいさつ運動を週1回実施する。</p> | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は95.6%（昨年度より0.3ポイント↑）で、目標を10.6ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ①の取組を中心に、生徒へのあいさつと会釈の励行を重点的に推進する。あいさつの大切さはもとより、あいさつの声飛び交う明るい学校づくりの一端として担うよう意識を高める。④として、「校内での来客や、校外での交通指導等に係るPTAや地域の方々にもあいさつができるようにする」を追加する。</p> | A |
| | <p>A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 学級活動では、様々な職業の社会的役割や意義を理解させ、自己の生き方を考える指導を取り入れ、学習の意義や価値を考えさせる。</p> <p>② 将来の目標に近づくための進路実現を目指して、テスト前学習に計画的に取り組ませ、テスト後は結果の振り返りを行わせることで、粘り強く学習に取り組ませる。</p> | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は87.6%（昨年度より1.8ポイント↓）で、目標を7.6ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き学級活動や学校行事を通して自己の生き方を考える内容を取り入れ、計画的に学習に取り組んだり、将来設計を行ったりできるよう指導する。</p> | B |
| | <p>A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 保健だよりや給食だよりを定期的に発行し、生徒へ健康や安全の重要性について伝える。</p> <p>② 朝食や給食を残さず食べること、歯磨きに関する強化週間を設け、健康や食生活に対する意識を高める。</p> <p>③ 実技や実験、実習作業を伴う授業においては、安全に配慮するよう指導を徹底する。</p> <p>④ エアコン使用の適切な運営や熱中症計の設置、冬季には加湿器の設置を行い、熱中症や感染症の予防に努める。</p> <p>⑤ 避難訓練を年2回行い、災害安全や防災に対する関心を高めさせる。</p> | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は95.0%（昨年度より0.1ポイント↑）で、目標を15ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、保健だより・給食だよりを定期的に発行し、生徒・保護者へ食育や健康の重要性について啓発したり、朝食の重要性に関する強化週間を設けたりして望ましい食習慣の育成を図る。 新型コロナウイルス感染症予防のための、マスク着用・手洗い・換気の徹底も継続していく。 エアコンの適切な運営や熱中症計の設置により、熱中症の予防に努める。 年2回の避難訓練を実施し、災害や防災に関する意識を高める。</p> | B |

| | | | |
|---------------------------------|--|---|---|
| 目 指 す 生 徒 の 姿 | <p>A7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 学級活動や道徳で、自己を見つめ、自分が社会のためにできることは何か考えさせ、未来を担う社会人を目指して、夢や目標をもつことの大切さを理解させる。</p> <p>② 地域の貢献や社会奉仕の意義を理解させ、ボランティア活動や地域行事に進んで参加できる態度を育てる。</p> | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は87.6%（昨年度より1.8ポイント↓）で、目標を7.6ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、学級活動や生徒会活動で自分たちが社会のためにできることは何かを考えさせ、地域の活動やボランティア活動に進んで参加できるようにする。</p> |
| | <p>A8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「生徒は、英語の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① ALTやT2との授業の際、small talk を使って英語でコミュニケーションをとる場の設定をする。</p> <p>② 英語の授業では、教員が発する英語の指示に生徒が英語で反応する学習機会の場面を多く設定する。</p> <p>③ 「ALTとコミュニケーション週間」を年に3回設定し、英語を積極的に使う機会を設ける。</p> | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は85.3%（昨年度より1.2ポイント↑）で、目標を5.3ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 英語を使用した会話活動や校内の掲示は、生徒のコミュニケーション能力の育成、また英語の使用感につながるため、来年度も実施していく。また、ALT週間はコロナのため今年度実施できておらず、来年度は工夫して実施できるようにする。</p> |
| | <p>A9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 各学年の「総合的な学習の時間」において、宇都宮の良さを学ぶ探究活動となる年計を教科横断的に再構築し、指導の充実を図る。</p> <p>② 教科で地域の良さや学校の良さに触れる題材や学習場面を設定し、郷土に目を向けさせることで、宇都宮の良さに気付くようさせる。</p> <p>③ 学校給食の郷土食や宮っ子ランチを教材にして、宇都宮の歴史や文化について考えさせ、郷土への愛情と誇りをもたせる。</p> | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は81.2%（昨年度より2.2ポイント↑）で、目標を1.2ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 生徒及び教職員の肯定的回答は目標を上回っているため、保護者に焦点を当てていく。取組としては、各種便りで、生徒が宇都宮について学んでいる姿を発信したり、保護者会などで発表するなどする。</p> |

| | | | |
|---------------------------------|---|---|--|
| 目 指 す 生 徒 の 姿 | <p>A10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「生徒は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 75%以上</p> | <p>① 各教科で、生徒がパソコンや図書を活用した授業を年間2回以上行う。</p> <p>② 授業参観や一人一授業の公開授業では、ICTや図書等を活用した授業を行う。</p> <p>③ 技術科の授業を中心に、ICT機器の正しい活用の仕方を指導する。</p> | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は67.1%（昨年度より6.1ポイント↑）で、目標を7.9ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 次年度は1人1台の端末が導入されるため、各教科での活用は必須となる。 ICT教育チームを中心としたICT活用指導力の向上や、AIドリルの導入により、具体的な取組内容の見直しをする。</p> |
| | <p>A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわり的心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 75%以上</p> | <p>① 9月の敬老の日に合わせて、道徳の「社会参画、公共の精神」の内容項目を扱い、各家庭の祖父母などの高齢者に対して感謝やいたわる心をもたせる。</p> <p>② 地域の老人会運動会に、生徒ボランティア参加を積極的に活動させる。</p> | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は87.5%（昨年度より0.3ポイント↓）で、目標を12.5ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 学習ボランティアの方と交流する機会を大切に、感謝をする心をもたせる。 道徳の授業で思いやりの心を育み、地域に住む高齢者の方々と接する際に、率先していたわる気持ち表すことができるよう指導する。 A2と共通項目のため、具体的な取組内容の見直しをする。</p> |
| | <p>A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「生徒は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 70%以上</p> | <p>① 「持続可能な社会」についての掲示物を作成し、生徒に啓発する。</p> <p>② 教室にプラスチックごみ箱、リサイクルボックスを設置し、持続可能な社会の実現に向けた行動に関心を高めさせる。</p> <p>③ 緑化委員会による花壇の整備、中庭の環境向上や、地域協議会と連携したマツのこも巻き活動を通して、校内の緑化活動を推進する。</p> <p>④ 避難訓練を年2回行い、災害安全や防災に対する関心を高める。</p> | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は80.4%（昨年度より13.9ポイント↑）で、目標を10.4ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 「持続可能な社会」について、教職員の意識を高める。各教科において「持続可能な社会」についての教材を扱う際に、本校の取組と関連付けることで、生徒にも身近な課題として意識させる。 来年度も生徒会活動において、緑化・給食・美化・防災などの各委員会の活動で、啓発を継続する。特に給食委員会による昼食時のパワーポイントを活用した放送が有効であったので、継続したい。</p> |

| | | | |
|---------------------------------|--|--|--|
| 目 指 す 学 校 の 姿 | <p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする生徒や外国人生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 85%以上</p> | <p>① 特別な支援を必要とする生徒について、教育相談・特別支援教育部会で継続的に状況を共有していく。</p> <p>② 心配な生徒に関して、校内でケース会議を開催し、チームで支援の方法を考える。</p> <p>③ かがやきルームや校内適応支援教室の適正な運用を図る。</p> | <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は96.1%（昨年度より3.9ポイント↓）で、目標を11.1ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 かがやきルームや校内適応支援教室の利用生徒はもとより、日本語指導者派遣を利用する生徒にも、よい変容が見られ成果が上がっている。 次年度も継続した取組を目指す。</p> |
| | <p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上</p> | <p>① いじめアンケートや日常的な観察から、いじめの早期発見、早期解決をするとともに、未然防止に努める。</p> <p>② 学級担任は、いじめは絶対に許さない姿勢で学級経営を行うとともに、全教職員は、生徒の言動に気を配るようにする。</p> <p>③ 保護者会や学校・学年・生徒指導日より・HPなどで、いじめの未然防止について取り上げ、いじめ根絶に向けた本校の取組を発信する。</p> | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は96.4%（昨年度より1.4ポイント↑）で、目標を6.4ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 本年度は「個性」について学級で考えさせる活動を通して、人との違いをより深く考える姿が見られ、いじめの未然防止につながった。次年度もいじめが許されない行為であることを徹底して指導し、いじめ根絶につなげていく。</p> |
| | <p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切にし、生徒がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 85%以上</p> | <p>① 学級担任は、係活動や当番活動、授業中の発表などで生徒一人一人の取組の良さを見出し称賛することで、生徒にとって居がいのある学校生活となるような学級経営を目指す。</p> <p>② 教職員同士で生徒の望ましい言動を伝えあい、生徒の自己肯定感を高め、学校全体として生徒を見守り、見届ける指導をする。</p> <p>③ 保護者へ連絡をする機会に、生徒の良い点を意図的に伝えるようにする。</p> | <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%（昨年度と同じ）で、目標を15ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 本年度の取組を継続するとともに、教職員間で生徒の良い面を伝えあい共有し、生徒を称賛することで、生徒の自己肯定感を高め、不登校を生まない学級経営を目指す。</p> |

| | | | |
|---------------------------------|---|---|---|
| 目 指 す 学 校 の 姿 | <p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする生徒や外国人生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 85%以上</p> | <p>① 日本語指導に係る母語指導者や日本語ボランティアの配置や日本語指導に係る教材の準備をする。</p> <p>② 外国人生徒の学習・生活体験等について国際理解担当教職員が中心となって、ケース会議を開くなどして学級担任や学年主任と連携し、共通理解を図る。</p> | <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は96.1%（昨年度より3.9ポイント↓）で、目標を11.1ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 次年度も、今年度の取組を継続し、外国人児童生徒等の実態に応じてケース会議などを開くことにより適切な支援が行えるように対応していく。</p> |
| | <p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、今の学校が好きです。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 学校生活全般において教職員が意図的・計画的に、生徒の頑張りや良さを認め、励まし、称賛する場面を積極的に設けることで、生徒自身の有用感を実感できるようにする。</p> <p>② 生徒会活動を中心に生徒の自発的・自治的活動を取り入れて、生徒が前面に出よう指導にあたる。また、学校全体がさらに明るい雰囲気となるような諸活動を推進し、生徒が自分の学校に誇りをもてるようにする。</p> <p>③ 教職員一人一人が自信をもって自分の業務に取り組み、生徒と関わることで、学校全体が明るい雰囲気になるように努める。</p> | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は86.7%（昨年度より1.1ポイント↓）で、目標を6.7ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 生徒会活動をより活性化し、教師主導でなく、生徒の自発的な活動を伸ばすようにする。生徒の頑張りを生かして、認め励ます教育を推進することから、善い行いや努力をみとる表彰を追加する。 また、学校全体がさらに明るい雰囲気となる諸活動を推進し、生徒が自分の学校に誇りをもてるようにする。 行事を単に中止するのではなく、そのような中でも生徒たちが生き生きと活躍できるような方法を教職員が考え、何らかの方法で実施できるように検討していく。 今年度課題が残る項目であったので、次年度、具体的な取組内容の見直しをする。</p> |
| | <p>A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上</p> | <p>① 授業で、「本時の目標」を適切に提示することで学習に見通しを持たせ、「振り返り」の時間を確保することで、学習の達成感をもたせる。</p> <p>② ペアやグループ学習を取り入れた対話的な活動やICTの活用や教材・教具を工夫するなど視覚的な活動を通して、個に応じたきめ細かな指導を図る。</p> <p>③ テスト前に補習形式の質問教室を実施し、個別の指導にあたる。</p> | <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は91.3%（昨年度より2.2ポイント↑）で、目標を1.3ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 個に応じた指導と学習意欲換気のために、ICTを活用し個に応じた分かりやすい授業を展開するとともに、①については、より徹底を図る。主体的・対話的で深い学びに向けた授業の実現に向けて、次年度、具体的な取組内容の見直しをする。</p> |

| | | | |
|---------------------------------|--|--|---|
| 目 指 す 学 校 の 姿 | <p>A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 学校行事や諸活動では、目的や方法の共通理解のもと、教職員全員が協力して業務に取り組む。</p> <p>② 生徒理解や配慮を要する生徒の適切な対応を図るために、SC、MS、SCMと学級担任との連携を密にし、全職員で情報共有や協力した取組を行う。</p> | <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は90.2%（昨年度より0.4ポイント↑）で、目標を10.2ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、教職員の共通理解のもと学校行事などに取り組むとともに、互いに進捗状況を確認する。 生徒理解や配慮を要する生徒の対応においても、担任が一人で抱え込むことのないよう、さらにチームで取り組んでいく体制づくりに力を入れる。</p> |
| | <p>A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 出退勤記録の入力やリフレッシュデーの設定により、勤務時間の意識化を図るとともに、諸会議録や連絡事項、学年・教科間で共有できる電子データを活用して業務の効率化を行う。</p> <p>② 校務運営委員会や職員会議を活用して、学校行事の円滑な運営や計画的な学年経営を行う。</p> | <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は86.3%（昨年度より4.7ポイント↑）で、目標を6.3ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、勤務超過時間が60時間を超える教職員に業務の効率化と自身のヘルスチェックを呼びかけるとともに、必要に応じて管理職の面談を行う。 諸会議等の計画的・能率的運営をさらに推進する。</p> |
| | <p>A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 70%以上</p> | <p>① 小中情報交換会、児童生徒指導強化連絡会、あいさつ運動、小学6年生の中学校訪問などを実施し、小中交流の機会をつくる。</p> <p>② 地域学校園教職員研修の授業研究を各小中学校で行い、その指導法や成果等を共有することによって、教科指導力向上に向けた取組を行う。</p> | <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は90.2%（昨年度より9.8ポイント↓）で、目標を20.2ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 小中授業研究会など参観はできなくとも授業実践資料の共有などは進めていく。 次年度再開できる取組は継続しつつ、丁寧なPR活動も進めていく。</p> |

| | | | |
|---------------------------------|---|---|--|
| 目 指 す 学 校 の 姿 | <p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 70%以上</p> | <p>① 地域コーディネーターとの連携を図り、図書や学習活動等のボランティアなど、地域人材を活用した諸活動を推進する。</p> <p>② 教育活動における地域の教育力を生かした特色ある活動を学校だよりやHPなどで、積極的に情報発信する。</p> | <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は98.0%（昨年度より2.1ポイント↑）で、目標を28ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 今年度は梅の実の収穫と松の木のこも巻きのみ実施できた。次年度可能な活動を精選しながら地域コーディネーターと連携した学校教育の充実を図る。 また、これらの活動を学校だよりやHPで発信するとともに、校内掲示板に掲示する。</p> |
| | <p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒ 地域の肯定的回答 70%以上</p> | <p>① 清原中学校地域協議会の協力を得て、学習ボランティアや校内環境整備活動等を展開しながら学校運営の充実を図る。</p> <p>② 地域協議会だよりで学校の取組や生徒の様子などの情報を発信してもらう。</p> | <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は98%（昨年度より2.1ポイント↑）で、目標を28ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 地域連携教員が主務者となり、地域や家庭との連携を充実させる。 学習支援ボランティアの参画が可能な教科をさらに検討し、地域コーディネーターと連携し学校教育の充実を図る。 学校だよりやHPを用いて、地域や保護者に積極的に発信する。</p> |
| | <p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 月1回の安全点検を行い、危険箇所の早期発見・早期対応を図る。</p> <p>② 台風や地震、落雷、降雪などの災害発生前後に校舎内外の巡視を行い、危険回避につとめるとともに、危険箇所の早期発見・早期対応を図る。</p> <p>③ 防犯カメラで、来校者をチェックするとともに、校門を登下校時以外は閉めておく。</p> | <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%（昨年度と同じ）で、目標を20ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、防犯カメラ等で来校者に対するチェックを行うとともに、登下校時以外の校門の閉鎖を徹底する。 感染症予防のため、来校者が校内に入る場合はマスク着用・手指消毒をお願いしたい。 安全点検を丁寧に行い、危険箇所の早期発見・早期対応を継続する。</p> |

| | | | |
|------------------|---|---|---|
| <p>目指す学校の姿</p> | <p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒ 教職員の肯定的回答 75%以上</p> | <p>① ICT機器が使いやすくなるよう、職員室の棚に書画カメラやDVDプレーヤー、CDラジカセ等を置き、管理簿を用いて紛失を防ぎ、定期的にメンテナンスをするなど、保管・整備を工夫する。</p> <p>② 必要図書アンケートを教職員や生徒に行って希望図書を購入し、学習に活用しやすいように、テーマ別にコンテナに分けて置いたりする。</p> <p>③ 不足している図書などは地域学校園で相互貸借する。</p> | <p>A</p> <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は86.3%（昨年度より2.6ポイント↑）で、目標を11.3ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ICT機器については従来のものに追加して各クラスにタブレットが配付されたため、それぞれの授業で生徒が使いやすいように管理していく。コロナ禍で、学校図書館の利用に制限があるが、今年度の利用日分割、しおりの配付などの工夫を続けて、さらに利用者を増やすようにする。 また、A10の共通項目のため、次年度、具体的な取組の内容を見直す。</p> |
| <p>本校の特色・課題等</p> | <p>B1 生徒は、家庭学習の習慣化を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「生徒は、自主的に家庭学習に取り組んでいる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上</p> | <p>① 生徒会学習委員会が中心となり、自主学習ノート提出の呼びかけやチェックを毎日行う。未提出の生徒へは、学級担任が学習の仕方等を個別に指導にする。</p> <p>② 各学年最初のガイダンスで具体的な家庭学習の仕方を指導したり、保護者にも見守りを依頼したりすることで、家庭学習への気運を高める。</p> <p>③ 生徒会学習委員会が、年間4回、自主学習ノートを毎日提出できた生徒を表彰したり、優秀なノートの展示を行ったりすることで、家庭学習の充実への機運を高める。</p> | <p>B</p> <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は91.7%（昨年度より0.8ポイント↑）で、目標を1.7ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 今年度の取組を継続する。自主学習ノートの活用が、定着率や得点の向上によりつながるように、効果的な家庭学習の仕方を、年度当初のガイダンスや委員会からの情報提供、学級担任の行う学習指導等で周知させる。また、保護者会等で学習指導係が取組を広報していくことで、保護者がそれらに関わり見守る気運を高める。</p> |
| <p>課題等</p> | <p>B2 生徒は、草花栽培活動やクリーン活動に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「生徒は、草花栽培活動やクリーン活動に取り組んでいる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上</p> | <p>① 生徒会緑化委員会による花壇の整備を行うことで、中庭の緑化環境を向上させ、緑化委員の取組として周知する。</p> <p>② 学年ごとの校内クリーン活動を年3回、11月に地域におけるクリーン活動を行い、環境美化の意欲を高め、生徒がより主体的に活動が行えるように働きかけていく。</p> <p>※昨年の項目 PTAと合同の校内クリーン活動</p> | <p>A</p> <p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は88.6%（昨年度より0.5ポイント↑）で、目標を8.6ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 緑化委員会や美化委員会の活動を中心とするが、全校生徒が活動できるように取組を再検討する。例えば、「清原の杜」の整備の活用を目的に生徒一人一人の活動を活性化や、食農体験中止に伴う学校農園の活用である。本校の特色ある取組として、これらの活動をさらに推進するために、地域協議会やPTAと活動できるように見直しをする。</p> |

| | | | |
|-----------|--|--|---|
| 本校の特色・課題等 | <p>B3 学校や家庭や地域は、生徒が安全に登下校できるように、交通ルールやマナーを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校や家庭や地域は、生徒が安全に登下校できるように、交通ルールやマナーを守るよう指導してくれる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上</p> | <p>① 交通安全教室を実施し、交通安全への意識を高めるとともに、月1回の登校指導や日頃の交通マナーを確認し、生徒の通学状況および危険個所の把握に努める。</p> <p>② 部活動終了後の日々の下校指導や、PTAの年間を通した下校指導、年2回の自転車点検を行うことで、安全な登下校ができるよう指導する。</p> <p>③ 交通安全委員が帰りの会で反射ベスト点検やヘルメットのごひも点検を行い、安全に登下校できるよう呼びかけをさせる。</p> <p>④ 交通事故が発生した際は、教職員が現場に向いて現状確認と適切な対応処置を行い、再発防止に向けて全生徒に指導を行う。</p> | <p>達成状況】 生徒の肯定的回答は97.9%（昨年度より1.4ポイント↑）で、目標を12.9ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、年2回の交通安全教室を実施し、交通安全への意識を高めるとともに、月1回の登校指導や日頃の交通マナーを確認し、生徒の通学状況及び危険個所等の把握に努める。 特に、新入生に向けた交通安全指導の徹底を図る必要がある。 交通安全委員の取組を継続し、生徒が安全に登下校できるように呼びかけを行うとともに、下校時の反射ベスト着用の徹底を図る。 LRT工事における情報を生徒や保護者に周知したり、警察への協力をお願いしたりして、生徒の登下校時の安全確保に努める。</p> |
|-----------|--|--|---|

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・教職員、保護者、地域住民及び生徒の全アンケート85項目において、58項目が前年度よりも肯定的回答の割合が同じ、または上回った。このことは、コロナ禍において様々な対応を丁寧に取り組んだ結果であると推察する。特に、拡充項目については、中間評価の結果から具体的な手立てを示し重点的に取り組んだことで、多くの項目で上昇した。また、市の中学校平均を上回った（同じものも含む）項目は、教職員が25項目中18項目、保護者が19項目中4項目、地域住民が11項目中4項目、生徒が20項目中9項目となり、合計75項目中35項目であった。「成果」と「課題」を以下のようにまとめた。次年度も引き続き、課題改善に向けた取組を継続していく。

「1」成果

(1) 3年間の経年変化から良さが見られる項目

① A14「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」

| 教職員 | | | 保護者 | | | 地域住民 | | | 生徒 | | |
|-------|-------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| H30 | R1 | R2 | H30 | R1 | R2 | H30 | R1 | R2 | H30 | R1 | R2 |
| 100.0 | 100.0 | 100.0 | 70.2 | 71.2 | 78.5 | 93.3 | 84.6 | 88.2 | 91.8 | 95.0 | 96.4 |

・肯定的回答の割合について、教職員では100%が維持され、保護者、地域住民が前年を上回り、生徒は3年連続で上昇している。大きく下降したH29より取組が改善されつつあると認識することから、今後もいじめの根絶に向けた指導を継続していく。

③ A18「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている」

| 教職員 | | | 保護者 | | | 地域住民 | | | 生徒 | | |
|-------|------|------|------|------|------|------|----|----|------|------|------|
| H30 | R1 | R2 | H30 | R1 | R2 | H30 | R1 | R2 | H30 | R1 | R2 |
| 100.0 | 95.9 | 96.1 | 71.3 | 75.0 | 78.1 | 100 | | | 85.2 | 89.1 | 91.3 |

・肯定的回答の割合について、教職員、保護者が前年を上回り、生徒は3年連続で上昇している。今後も、GIGAスクール構想による教師の授業力向上と、学習内容の確実な定着を目指した個に応じたきめ細かな指導による学習指導を継続する。

(2) 特に改善が見られた項目

① A9「児童生徒は、宇都宮の良さを知っている」

〔教職員：92.2% (20.8P↑) 保護者：53.9% (3.7P↑) 生徒：81.2% (2.2P↑)〕

・教職員、保護者、生徒ともに上昇した。市の平均との比較でも、教職員が28.8P、生徒が3.1P上回っている。これは、総合的な学習の時間で清原中の良さを探究させたり、学校給食の郷土食や宮っ子ランチを教材にして宇都宮の歴史や文化について考えさせたりしたことで、宇都宮の良さを知るきっかけにつながったと考える。次年度も総合的な学習の時間における「宇都宮学」を活用して、郷土への愛情と誇りをもたせていく。

② A12「児童生徒は、持続可能な社会について関心をもっている。」

〔教職員：76.5% (15.3P↑) 生徒：80.4% (13.9P↑)〕

・教職員、生徒ともに前年度から大きく上昇した。市の平均との比較でも、教職員が22.7P、生徒が9.2Pと上回っている。教職員の指導に対する意識が高まり、掲示物や委員会活動での啓発活動につながったことで、生徒の関心が向上したと考える。新学習指導要領にも「持続可能な社会の構築」に関する視点が示されていることから、さまざまな取組と啓発活動を継続していく。

- ③ A10「児童生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している」
 A25「学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている」
 [教職員：86.3% (2.6P↑) 保護者：50.0% (0.8P↑) 生徒：67.1% (6.1P↑)]

・教職員、保護者、生徒ともに上昇した。コロナ禍において、家庭でも学習できる「学びポケット」や「いーぼーど」の活用は、ICT機器の活用方法を重点的に広げることができ効果的であったが、目標指数は達成できなかった。生徒の授業中の利用や教師のICT活用を次年度も取り組む。

- ④ A20「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」
 [教職員：86.3% (4.7P↑)]

・前年度より上昇するとともに、市の平均を14.9pと大きく上回っている。今後も、校務運営委員会や職員会議、学年主任会を活用し、学校行事の円滑な運営や見直しをもった計画的な学年経営を行うことを心がけるとともに、勤務時間を意識して働く教職員の増加を目指す。

- ⑤ B2「生徒は、草花栽培活動やクリーン活動に取り組んでいる」
 [教職員：100% (4.1↑) 保護者：87.6% (10.1↑) 生徒：88.6% (0.5↑)]

・教職員、保護者、生徒ともに上昇した。夏休みの親子除草作業は中止となったが、学年ごとに3回のクリーン活動を実施した。また、緑化委員の草花栽培活動や、美化委員会のとびやま城趾公園クリーン活動では、積極的に取り組む様子が見られた。保護者の10p以上の上昇は、これらの様子をHPに掲載したことで、活動の発信につながったと考える。

「2」課題

(1) 前年度との比較から、努力を要する項目

- ① A4「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」
 [教職員 84.3% (9.6P↓) 保護者 90.2% (2.3P↓) 地域住民 77.3% (22.7P↓) 生徒 95.6% (0.3P↑)]

・教職員、保護者、地域住民が前年度より下降した。特に、地域住民は市の平均との比較でも19.2P下回っている。マスク着用のため、生徒のあいさつの声が聞き取りにくい場面もあるので、教師からの率先したあいさつと、校内での生徒の会釈推進を図る。

- ② A17「学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」
 [教職員 94.1% (3.9P↓) 保護者 89.1% (1.0P↑) 地域住民 100.0% (—) 生徒 86.7% (1.1P↓)]

・教職員、生徒が下降した。今年度各種大会や行事が中止となる中、どのように行事を行えるかを考え、清原チャンネルや各学年のスポーツ大会において、生徒の活躍の場を増やせるよう配慮したが、新しい生活様式に充実感を感じ得ないと考える。

- ③ A21「学校は、「小中一貫・地域学校園」の取組を行っている。」
 [教職員 90.2% (9.8P↓) 保護者 86.9% (2.0P↓) 地域住民 95.0% (5P↓) 生徒 63.4% (14.9P↓)]

・教職員、保護者、地域住民、生徒の全てが前年度より下降した。あいさつ運動や乗り入れ授業、小学6生の中学校訪問などが中止となったことが影響していると考えられる。

- ④ B3「学校や家庭や地域は、生徒が安全に登下校できるように交通ルールやマナーを守るよう指導してくれる」
 [教職員：100% (4.1↑) 保護者：93.2% (2.9↑) 地域住民：73.9% (7.4↓) 生徒：96.5% (97.9↑)]

・教職員、保護者、生徒が前年度より上昇し、地域住民が下降した。生徒数の増加やLRT関係工事など、次年度以降も登下校に心配な場面が考えられることから、この項目は常に本校の課題であるととらえている。

活力ある学校づくり，活力ある生徒の育成を通して，地域とつながる活動の工夫

今年度は，新型コロナウイルス感染症拡大防止の非常事態宣言が発出にともない，地域協議会が紙面開催となったので，学校評価についても，文書にて意見を収集した。（紙面の都合上，一部抜粋し掲載）

（１）今年度の成果について

- ・概ね良好です。特に変化の激しい昨今の状況下で「分かる授業きめ細かな指導」のポイントがアップしていることから，教職員が工夫を凝らしているのが想像できます。
- ・多くの項目でポイントが上昇していることは，関係者の皆様の取組の結果だと思えます。
- ・不登校生徒がいることは気になりますが，成果ありと思えます。
- ・コロナ禍において様残な対応を丁寧に取り組んだ結果とあるように，それぞれ自信や相手に向き合うことができたことで成果が得られたかと思えます。（同様な意見４件）
- ・約７割の項目の肯定的回答割合が同じ又は上回ったことは，先生方のご尽力の成果であり，感謝しております。ただ，市の平均を上回った割合が教職員 72%（18/25）に対して，生徒 45%（9/20）と大きな開きがあり，その示す意味が気になったところです。また，いじめに関する指導についての肯定的回答は，教職員が 100%に対して生徒は 96.4%であり，3.6%の生徒の思いに寄り添って，引き続き取り組んでくださいますよう，お願いいたします。
- ・生徒と接する場面がありませんが，校内ですれ違う際，あいさつはよくできていると思えます。
- ・教職員のいじめ根絶に向けた指導継続やきめ細かな指導が行き届いていると感じます。
- ・いじめの部分で，教職員と保護者で数値に開きがあるが，どのように改善していくのか。
- ・A14についてですが，前年を上回ったことは意識が高くなっていることだと思えます。これからも根絶に向けた指導を継続して行っていただきたいと思えます。
- ・A14「教職員はいじめが許されない行為であることを指導している」，A15「教職員は不登校を生まない学級経営を行っている」について，これらの評価は「いじめや不登校を減らすために教職員が何をどのように頑張ったか」を評価しています。しかし，これらの達成状況を評価する基準にはアンケートの他に，「いじめ件数」「不登校件数」も含める必要があると思えます。
- ・教師が目に見えていないスマホやゲーム内でのいじめにもしっかり目を光らせ，対応してほしい。
- ・学力については，コロナの影響でやる子とやらないこの差が大きい。
- ・結果の値ではよい方向へ行っているように見えますが，実態はどうなのか・・・。
- ・夏休みの親子除草作業は，学年ごとなどで実施すべきではなかったと思う。

（２）今年度の課題について

- ・A4「生徒は，時と場に応じたあいさつをしている」については，地域住民の下がり幅が最も大きいので，学校全体での取り組みの推進により，来年度の改善を期待します。
- ・昨今の状況に大きく影響を受けているのでは？と思えます。（ポイント減は，やむを得ない）A4「生徒は，時と場に応じたあいさつをしている」やA17「学校は，活気があり，明るくいいきとした雰囲気である」は「基本のこと」なので，大切にしていく必要がある。基本をおろそかにすると到達できない。
- ・学校の外でもあいさつできるよう，指導してほしい。
- ・課題となる項目もコロナ禍の影響を受けていると思えます。そのような中，声かけや情報の共有等を図ることも改善につながるかと思えます。
- ・ほとんどの生徒があいさつをしていると思われるのですが，マスク着用のため，会釈の推進も重要かと思われる。（同様な意見３件）
- ・あいさつについて，校内での取組は行われているようですが，学校に行った時や下校指導の際，生徒からあいさつをされることが少なく，残念に思っております。あいさつは親が注意すべきことではありますが，地域の方や保護者，来校者等誰に対しても自然にあいさつができる生徒が増えるよう，今後も取組をお願いします。

- ・慣れないため戸惑いもありますが、家庭でも学習できる「学びポケット」や「イーボード」、ICT機器の活用をすることができ、素晴らしいと思います。今後の取組に期待しています。
- ・ICT機器の活用は年々高まっており、教職員、保護者、生徒ともに上昇し、効率化に取り組んでいると思われます。
- ・学びポケットの利用を子どもたちにも分かるようにしてもらいたい。
- ・クリーン活動はこれからも続け、緑豊かな学校にしてほしい。
- ・生徒の草花栽培活動やクリーン活動についても、積極的に取り組んでいるように感じます。
- ・地域活動の際には、多くの保護者の方々に参加いただきたいです。

(3) 活力ある学校づくり、活力ある生徒の育成を通して、地域とつながる活動の工夫について

- ・生徒たちが自分の学校を誇りに思うような活動や学校の象徴などをしっかりと認識し、外部でそんな話を自然に言えるようになったらよいのではと思います。現在、松の木がたくさんありますが赤松があるのはとても珍しい学校です。それにこもを巻くという作業も他校では見られない光景です。多くの生徒に理解してほしいと思います。
- ・まず基本から、「あいさつ」です。(同様意見2件)
- ・これまでも、地域体験キャンプや清老連体育大会など、地域活動にご協力いただいておりますが、地域活動の幅を広げていただくなど、双方向の交流の機会を増えることを願います。
- ・コロナ禍、難しい点もありますが、会釈等努力されていて、マスクをしていても会った際には生徒から活力ある学校生活の雰囲気伝わってきます。清原中学校のホームページも見やすく、活動内容がよく分かります。(同様意見3件)
- ・A12「生徒は持続可能な社会について、関心をもっている」の取組については、SDGsについて地域の方々にレクチャーしてもらおうのはどうでしょうか。教職員、生徒、保護者、地域ともに他人事ではいられなくなること。(同様意見2件)
- ・生徒が「持続可能な社会」に関心があるので、生徒中心に企画を立て、校内、小中学校間、地域、世代間で交流を進めていただけたらと思います。そこから何か心に残るものを見つけてもらえたらうれしいです。
- ・地域人材活用(保護者や地域の方に外部講師として参加してもらおう)(同様意見4件)
- ・LRTも教材としてよい。 ・緑化活動がやりやすいのでは。
- ・作新大学とともに何か将来への目標になるものを生徒に与えられたらと思う。
- ・できる限りの取り組みを示し、試行錯誤しながら進めていくことが大事なのではないかと思います。

(4) その他

- ・コロナ禍で様々な課題がある中で、子供たちのために創意工夫を凝らして授業や行事等に取り組んでいる先生方に心から感謝申し上げます。人との触れ合いに制限がある今だからこそ、思いやりや創造力が大切になると思いますので、教育目標の実現に向け、よろしく申し上げます。
- ・4月にゆいの杜小学校が開校し、今後清原中学校も生徒数が増加すると予想されます。これまでと同様な良い教育環境の維持を期待しています。
- ・全体的に問題なく学校が機能していると思います。何となく先生の負担が大きいような気がします。
- ・今年度は行事が中止となる中、梅やブルーベリージャムづくり、松の木のこも巻きができたことはよかったと思います。あまり活動できませんでしたが、先生方にご対応頂きありがとうございました。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

活力ある学校づくり、活力ある生徒の育成を目指した教育活動の工夫

本年度は、「知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成は、活力あふれ安心して学べる学校においてこそ実現できる」という考えのもと、様々な活動を思い描いてきたが、充実した教育活動を十分に実施することができたとは言い難い。しかしながら、前年度より数値が上昇した項目が多く目標指標の達成等、結果が良好であったのは、新しい生活様式においても、教職員と生徒が想像力と創造力を働かせ、様々な活動を工夫し、実行してきた成果であるとする。これは、新学習指導要領の趣旨に示される予測不能な社会の到来において「社会の変化に主体的に対応できる、生きてはたらく力」の育成につながると実感した。また、学校関係者評価についても文書による意見回収であったため、一人一人の直接の思いや考え、学校への期待等に触れることができた。

次年度の重点項目は大きく変わらないが、校内組織の見直しや教育活動の工夫とともに、次年度の具体的な取組内容を検討することで、生徒、教職員、保護者、地域のそれぞれのよさを発揮した教育環境の充実と地域に根ざした開かれた学校づくりを目指す。

○（１）確かな学力を育む教育の推進

「A10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」

「A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。」（新規）

「A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」を重点項目とする。

ここでは、GIGAスクール構想への迅速かつ適切な対応と運用を目的とする。ICT教育推進チームを組織し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善によるICTの効果的活用の推進と、個に応じた分かりやすい授業の展開を双軸ととらえ、生徒が情報を収集・整理したり、自分の考えを発信したりするICTや図書を活用した教育活動を充実させる。指導と評価の一体化を基盤に、生徒が中心となる授業の工夫と分かる授業の実践は、学習指導のスキルアップとなると考える。さらに、AIドリルの導入や端末の持ち帰りなど、家庭学習の「質の向上」と「習慣化」により、一人一人に応じた指導を行い、学力向上を目指していく。

○（２）豊かな心を育む教育の推進

「A2 生徒は、思いやりの心をもっている。」

「A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。」

「A4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。」（新規）

「A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」を重点項目とする。

ここでは、心の教育の充実により、思いやりの心や自己有用感の育成をねらいとする。道徳科の授業の充実とともに、行事等の振り返りシートを活用し、自分のもとより他者を思いやる大切さや価値に気付くようにする。また、学校生活全般において生徒の頑張りや取組の良さを認め、励まし、称賛する場面を設けることで、自己肯定感や有用感を高める。この規範意識や思いやりの心の育成が、いじめや不登校対策にもつながると考え、「学校が好き」と回答する生徒の増加、あいさつの声が飛びかう活力ある学校づくり・活力ある生徒の育成を図る。さらに、今年度中止となった学習ボランティアの方々との交流や地域協議会の各種行事への積極的参加、清老連運動会やとびやま祭りのボランティア活動を通して、地域とのつながりも深めていく。

（３）地域と連携・協働した学校づくりの推進

「B2 生徒は、草花栽培活動やクリーン活動に取り組んでいる。」を継続して重点項目とする。

ここでは、市内中学校で最も広い敷地と恵まれた環境を「清原の杜」として授業や生徒会活動に関連付け、特色ある学校づくり（頑張る学校プロジェクト）として推進することをねらいとする。また、1学年の食農体験事業が中止となったことから、学校農園の活用を再検討し、草花栽培活動の充実も図る。学校の自然環境の維持と活用は保護者や地域協議会からも要望が強く、親子除草や地域協議会との「松のこも巻き・こも外し」、「花の苗植え」などの緑化活動も継続して取り組むとともに、校内・校外での「クリーン活動」も地域ボランティアとの交流活動としていく。地域と連携・協働した特色ある学校づくりを目指した環境整備や人・自然・地域とのかわりを通じた体験的活動は、「あいさつ」や「思いやりの心」といった上の(2)の豊かな心の育成にもつながり、地域とともに歩む学校づくりに効果的であるとする。